

府民会議事業の今後の方向性 (令和5年度 運営委員会にて決定)

- ◆ 万博を契機に、府民ひとりひとりの脱炭素に向けた意識と行動変革への取組に重点化し、2050年の将来像実現のため、特に次世代を担う若者をメインターゲットとする。



(2025大阪・関西万博までの主な取組)

府民ひとりひとりのライフスタイルの変革に関わる取組
(次世代を担う若者をメインターゲットにした事業)

来年度の重点取組

〔新規〕新たな分科会「学生環境サミット」の設置

具体的取組

- ①学生環境団体等の交流機会の創出
- ②学生環境団体等の活動状況の共有

既存取組(分科会)及びその整理

- ① 継続実施： おおさか3Rキャンペーン、おおさかマイボトルパートナーズ
- ② 実施対象を学生等に見直し、継続実施： おおさか環境デジタルメディア学生コンテスト
- ③ 万博後、上記新規事業に移行： 学生エコチャレンジミーティング

〔新規〕新たな分科会「学生環境サミット」の設置

方向性

- ◆ 学生団体をはじめ、府域での環境活動や環境をキーワードに様々な取組を行う次世代を担う学生等が参加する交流会等を開催し、各団体の取組や環境課題の共有を促進するとともに、団体間のネットワーク構築や協働機会の創出を図り、環境保全活動の輪を広げる。

具体的取組

①学生環境団体等の交流機会の創出

環境活動に取り組む学生団体をはじめ、環境活動をキーワードに集まる様々な学生等を対象とした交流会を開催。

交流会の実施に向けた企画ミーティングを経て、各団体の取組紹介や、環境に関する対話・グループワークを実施し、各団体の連携・共創による活動の活性化を図る。



▲交流会イメージ

②学生環境団体等の活動状況の共有

学生・会員が相互に、自らの活動について情報共有することで、学生等においては、府の施策や社会の取組状況を広く知ることができるとともに、活動における相談や協力を事業者等に求めることができる。

会員においては、学生団体の活動状況を知ること、自らの活動における参考事例とすることができるなど、相互交流による活動の活性化を図る。



おおさか環境デジタルメディアコンテストの見直しについて

方向性

- ◆ 令和6年3月8日に開催した豊かな環境づくり大阪府民会議運営委員会にて、「府民会議事業の今後の方向性」として「万博を契機に、府民ひとりひとりの脱炭素に向けた意識と行動変革への取組に重点化し、2050年の将来像実現のため、特に次世代を担う若者をメインターゲットとする。」こととなった。
- ◆ 本コンテストについては、令和6年度の実施は一時休止していたが、令和7年度の実施にあたっては、前述の方針及び事務手続きの効率化を踏まえて、以下のとおりコンテストの見直しを図り、実施することとする。

主な見直し項目

見直し前

おおさか環境デジタルメディアコンテスト

➤ 応募対象 制限なし

(現状) 制限はないものの、学生等に応募に偏りがあった。また、大阪府の事業であるが、府外からの応募もある状況。

➤ 募集部門 デジタルポスター部門、動画部門の2部門

(現状) 動画部門の応募数はデジタルポスターの約20分の1だが、審査員への送付等、取扱いに時間を要している。

➤ 賞の枠組 ・最優秀賞(1作品) ・優秀賞(5作品程度) ・大阪産賞(5作品程度)

(現状) 協賛減により、大阪産を副賞とする賞の選出が厳しい。

見直し後

おおさか環境デジタルメディア学生コンテスト

➤ 応募対象 大阪府内に在住・通学している学生

(理由) 府民の中でも、メインターゲットである次世代を担う若者(学生)を対象とする。

➤ 募集部門 デジタルポスター部門

(理由) 動画部門については応募数が振るわないことを踏まえて、デジタルポスターの作品募集に絞る。

➤ 賞の枠組 ・最優秀賞(1作品) ・優秀賞(5作品程度)

(理由) 応募対象を学生に限定したことに伴い、賞を見直し、競争率を高めることで、コンテストの質の向上を図る。